

2017年度地域文化演習・地域文化調査法・地域調査入門・地域環境演習・地域環境調査法のテーマ・内容・調査地域一覧（2017年3月14日）

地域文化演習（3年選択必修）

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等		曜・時限
小田匡保	A	歴史地理・文化地理の論文講読と地域調査	前期は、発表担当を決めて、歴史地理・文化地理を中心に人文地理学の論文講読を行なう。後期は、10月に3泊4日で地域調査を行なう。場所は、静岡県を予定している。テーマは、農業、地場産業、商業、交通、観光、文化などグループで設定する。最終的には調査報告書をまとめる。		水・5

地域文化調査法（3年選択必修）

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
櫻井明久	B	地誌的研究	中国山地ないし九州北部地域	10月初旬	受講生の皆さんと相談の上、中国山地（山陰・山陽を含む）ないし九州北部（豊前・筑後川流域など）などから地域を選び、地域とその変化全般について、あるいはある特定テーマに絞って、現地調査を含む地域調査法を習得しながら、研究を試みたい。また、前期には大学周辺で、都市内の地域調査の実習を試みたい。	月・5
佐藤哲夫	C	小地域の地図と地誌	那覇市	6月末か7月初めを予定	那覇市内の住宅地区や商店街などの街区の変化について、地図を出発点に調べ、その街区の特徴を地誌的にまとめる。住宅地区では人口統計、商業地区では商業統計の分析に興味のある諸君の参加を期待する。	水・2
須山 聡	D	人口維持のための集落点検	鹿児島県宇検村	6月下旬または7月上旬	過疎化と高齢化が進む集落において、人口維持と生活改善を目的とした、「集落点検」を住民とともに実施する。集落点検では、学生諸君と住民が集落の問題点を語り合うワークショップを開催し、解決のための具体的な提案を考える。対象集落は、宇検村の中でも過疎化が著しい佐念・部連の2集落を予定している。地理学的アプローチによる地域貢献を趣旨とするが、学生諸君にとっては、住民の皆さんとの交流が大きな魅力となるであろう。	水・2
高橋健太郎	E	農山村の暮らしと産業	長野県栄村	6月（4泊5日）を予定	少子高齢化が進む山間集落においてフィールドワークを行なう。課外の時間も使って何回も書き直して調査報告書を作成する。「村落地理学」を履修の人は今年度にA・Bとも履修のこと。	月・3
土谷敏治	F	都市と公共交通	大阪府堺市	10月中旬	次年度の卒業論文作成を念頭に置いて、論文の講読、調査・研究計画の立案、資料の収集、現地調査、調査結果の整理・分析、調査報告のプレゼンテーション、調査報告書作成の実習を行う。全体のテーマは交通を中心とした都市の問題とし、公共交通機関の維持や再整備について、行政や事業者の聞き取り調査や見学を行う。なお、各自の現地調査のテーマについては、履修者の希望を尊重する。	火・5
橋詰直道	G	地方都市の自立とまちづくり	高知県又は和歌山県内の地方都市	6月23日～26日又は10月6日～9日（3泊4日）	高知県または和歌山県内の地方都市を事例に、歴史・地場産業やまちづくりについて学ぶ。例えば地場産業と観光、中心商店街とまちづくりなどの班に分けて調査し、報告書としてまとめる。6月末の現地調査の場合、6月までは調査地に関わる文献調査と文献レビュー発表、現地調査期間中は毎夜レポート、終了後まとめレポート提出と発表、その後は調査結果を集約・地図化・分析し報告書用の原稿づくり（6回以上書き直して提出してもらう）。12月報告書完成と班別発表を行う。この他に東京日帰り巡検も行うので、積極的に参加する者に限る。	火・3

地域調査入門（2, 3, 4年選択）両専攻共通

教員名	記号	入門テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
櫻井明久	A	那須地域の農業・農村と田舎町	大田原市周辺	5月29日から6月1日（予定）	自然環境の違いを地形図読図から予想し、景観観察と併せて農村地域の地域性と歴史的な発展・変化傾向、および地域中心としての田舎町と地方都市の構造変化を考察したい。この観察調査を、身近な関東の伝統的な農村の空間パターンや都市化を考えるヒントにしてもらいたい。	前期 火・3
高橋健太郎	B	農山村のアートツーリズム	新潟県十日町市、津南町	11月（3泊4日）を予定	2000年より「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」を開催している地域を訪問し、これまでの経緯や影響、課題を調べる。調査だけでなく、文献講読や調査レポート作成にもきちんと取り組める人のみ参加のこと。	後期 火・3
平井幸弘	C	火山地形と災害、ラムサール湿地のワイズユース	北海道渡島駒ヶ岳及び大沼地域	10月上旬に2泊3日の予定	北海道渡島駒ヶ岳及び大沼地域において、駒ヶ岳の地形と過去の噴火災害、ラムサール条約登録湿地である大沼の自然と保護、エコツーリズムなどに関して、関係機関・団体・個人を訪ね、さらに地形調査、水文調査、植生調査、景観調査などを実施する。	後期 火・2
須山 聡	E	豊年祭の参与観察	鹿児島県宇検村宇検集落	旧暦8月15日前後3泊程度	昨年度に引き続き、宇検村宇検集落における豊年祭・敬老会に参加し、行事の全容を参加者全員で記録する。今年度はとくに観察項目を限定し、より詳細な記録を作成する。	後期 金・4

地域環境演習（3年選択必修）

教員名	記号	演習テーマ	演習内容等		曜・時限
平井幸弘	E	湖沼をめぐる環境問題とワイズユース	2018年10月15-19日には、霞ヶ浦を舞台に「第17回世界湖沼会議」が開催される。メインテーマは、「人と湖沼の共生ー持続可能な生態系サービスを目指してー」である。そこで本演習では、まずこのテーマに沿って既存の文献や資料収集し、それらの分析に力点を置きたい。次いで、霞ヶ浦のほか北浦、涸沼などで1泊2日または2泊3日のフィールドワークを行う。		水・4

地域環境調査法（3年選択必修）

教員名	記号	調査法テーマ	調査地域	調査期間	調査内容等	曜・時限
江口 卓	A	屋久島の気候と環境	鹿児島県屋久島町	10月中・下旬	前半は、屋久島の大雨をテーマとして、研究のレビューとデータの解析をあわせて行う。後半は、屋久島の気象災害と世界自然遺産地域の環境問題をテーマとして調査解析を行う。	水・4
鈴木秀和	B	浅間山の自然環境・観光振興・防災	群馬県嬬恋村・長野原町とその周辺	6月下旬～8月上旬（3泊4日）	昨年、日本ジオパークに認定された浅間山北麓地域において、自然環境（地形・気象・水文・植生）や、それを活用したジオツーリズムによる地域振興、火山災害や防災などについて調査を行う予定。授業では、文献を講読し、調査テーマを決め、調査計画を立案する。現地調査後は、その結果をもとに報告書の作成に取り組む。	火・5
鈴木重雄 （4月着任予定）	C	島根県大田市の植生と地形	島根県大田市	夏季休暇初めor後期授業初めの3泊4日	三瓶山、石見銀山を含む島根県大田市で、たたら製鉄・鉄穴流し、銀山開発、放牧による植生・地形の変化について調査を行う予定である。また、その前提となる火山や河川による地形形成・植生の垂直分布についても取り扱う。これらについての調査テーマを決め、現地調査を実施する。	火・4

*演習と調査法、地域調査入門と演習または調査法を履修することも可能です。希望人数によっては調整することもあります。